

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年1月20日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690500048
法人名	医療法人親貴会
事業所名	グループホームてね
所在地	鹿児島県いちき串木野市上名5050番地 1 (電話) 0996-33-2210
自己評価作成日	平成26年12月28日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年1月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を感じてもらえるように、その時期の行事などを取り入れて楽しんでいただけるよう心掛けている。誕生日の月には入居者、ご家族の要望に沿った、わがままdayをスタッフ1名つけて1日、設けている。また、法人内の施設との合同行事や自治会の行事、地域の祭りなどの見物にも出掛け、地域との交流を図っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目を迎える当ホームは、串木野インターチェンジにほど近いため交通の利便性も良く、辺りは緑豊かで静かな環境に位置している。広々とした敷地には菜園もあり、利用者は苗の植え付けから収穫までを職員と共に楽しみながら行っている。

自治会に加入しており、ホーム通信「てね便り」を地域に向け配布しており、ホームへの理解や存在を知ってもらうように積極的に働きかけている。地域行事の夏祭りや鬼火炊きなどへの利用者の参加も多く、清掃活動や草むしりを通じた地域への奉仕活動も行うなど、職員が一丸となって、開設当所から地域との交流の機会を多く持つように日々、努力を重ねている。

外出支援には特に力を入れている。花見やピクニック、ソーメン流しなど季節に応じた多彩な年間計画が実施されており、誕生月に(の)「わがままデー」を、企画するなど、利用者の個々の外出や楽しみなど、出来るだけ希望に添える様に職員配置や時間の工夫もしている。

職員は理念の根幹にある利用者の想いの汲み取りを大切に、日々、傾聴し温かく寄り添うケアを実践しておりその様子は、家族のアンケートからも感謝や安心のコメントが寄せられている。

地域を取り込んだ徘徊模擬訓練や園児との交流計画など、様々な取り組みを視野に入れた構想があり今後、益々、展開が楽しみなグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念をホール内の目につく所に掲示している。毎朝、職員は朝礼での復唱を行い、理念に沿ったケアの実施を日々心がけている。	開設時に職員全員で作上げた理念を掲げている。管理者や職員は、言葉にならない利用者の想いの汲み取りを大切にし日々、温かく寄り添うケアの実践に努め、振り返りの機会に唱和して理念の浸透を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板や公民館行事、清掃などにも参加している。また、公民館へ呼びかけ、ペットボトルキャップ収集も協力をもらっている。	開設時より、自治会に加入しており、地域の清掃の奉仕作業や夏祭り、鬼火炊き等、地区の年中行事への利用者参加も多くある。ホームの避難訓練には公民館長を含めた地域住民の参加も得られており地域との交流の機会を持てるように努力している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	公民館行事の催しなどに参加している。回覧板へ「てね便り」を提供し、情報を地域へは発信している。また年1回、地域の方にも避難訓練の協力を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、公民館館長、公民館主事、家族代表、行政職員の参加を得て開催している。今後もこの会議を通じ、地域や家族と情報交換を行ないサービスの向上につなげていく。	地域代表、家族、行政等の参加を得て2ヶ月置きの定期開催である。活発な意見交換の場になっており、緊急時対応に公民館放送の利用や地区全体での徘徊模擬訓練についても話し合い、実施の予定である。今後は家族参加の呼び掛けにも力を入れる方向である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当の方に疑問点などアドバイスを頂いている。また、アンケートやご質問などに対しても迅速に対応している。	運営推進会議への参加や介護相談員の受け入れもあり、日頃より相談や報告など、情報交換を行い相互で協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回身体拘束に関する法人内の研修や、全体会議を活用して勉強会を行ない、身体拘束についての理解を深めている。また、日中は施錠はせず、言葉使いや態度に気をつけるケアを取組んでいる。	法人全体の研修やホームでの勉強会も行っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者は現場で気付けばその都度、注意を促している。	職員間での身体拘束に関する意識や知識にバラつきがあり、具体的な行為や言葉遣いについて再確認し、職員全員が身体拘束に関しての共有意識や知識を持ったケアが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や勉強会などで虐待の理解を深め、虐待防止の意識向上に努めている。不適切と思われる言動に対しては職員間でお互いに注意できるような環境作りにも取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行ったり、研修に参加して知識を深め、入居者の個々の状態に応じて情報提供を行なえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族と面接を行い現状や希望を把握し、医師やケアマネと協議・検討を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で、個々で話を聴くなどして、意見・要望を聴き、他の職員や家族などに相談し、改善を図っている。家族には、面会に来られた時や担当者会議などでも積極的に希望や要望などを確認し、反映できるように取り組んでいる。	年間行事の様子を入れたビデオを作成し利用者、家族から好評を得ている。家族会や餅つきなどの行事への参加時や、面会時等に意見や要望の聞き取りの大切な機会にしている。遠方や面会の少ない家族に対して、利用者のホームでの日常生活の様子が伝わりにくい状況克服に取り組んでいる。	家族との信頼関係を築き、何でも言っても貰える関係作りの為にも、利用者担当制を活用した個別の手紙などの工夫が望まれる。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全体会議フロア会議を実施し意見交換出来る場を設けている。また、個人面談でも意見を聴き、話し合いを業務に活かしている。	法人内の移動で職員の入れ替えがあるが、管理者は年2回の個別面談を通し人柄の把握や意見・要望の収集に努めている。ミーティングを通して現場の気付きやアイデアは積極的に採り入れサービスの向上に向けている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表や各種届などで勤務状況を把握し年1回、個人の実績評価も行なっている。職員の慰労を兼ねて年に数回、親睦会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の参加や法人内の勉強会を通して職員のレベルアップに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会に加盟し、同地域のグループホーム同士でまた、その他の介護事業者との交流会に参加し、情報交換や勉強会を開いて質の向上に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の申し込み時に本人・家族からアセスメントを行い職員が入居者の把握を行う。入居開始時には声掛けをまめに行い、利用者の思いや考えを早く把握して信頼関係を築くように努め、安心して過ごして頂けるように心がける。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時細部にわたり、十分に説明を行い入居後も、話し合いの場を設けている。また、面会時など入居者の様子を伝え、何かあれば連絡を行うなどの信頼関係を築くように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・職員間で十分な話し合いの上、今どのような対応が必要なのか、検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で本人が出来る事は行って頂き、出来ないことはサポートし、暮らしを共にする関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人に対する家族の悩み・意向・プライバシーを尊重しながら傾聴し、共に支えていく関係を築く努力を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや地元で行われる行事の参加、馴染みの場所への外出や馴染みのある交流関係を大切にし、支援に努めている。	地域の友人や知人が訪ねて来て一緒にお茶を飲んだりする利用者もいる。自宅に帰ったり馴染みの美容室に行くなど、家族の協力も得ながら関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出を活用してコミュニケーションが図れるように努めている。また、ホール内でも利用者同士が話ができるよう、席の誘導を行ったり必要時には職員が間に入りフォローしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などの場合は職員がお見舞いに伺っている。また、亡くなられた時は、通夜や葬儀への参列を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者に居室担当の職員を決め入居者自身の希望や意向を把握し入居者主体のケアに努めている。困難時は、申し送りやフロア会議などで検討している。	1対1で話す場面を設け、言葉の端々に出てくる思いの汲み取りを重視している。困難時は家族の情報も得ながら表情や所作を通してその人らしい生活が出来るように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は利用者のフェイスシートを読んだり、ご家族の情報やサービスの経過などで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事・出来ない事を1人1人見極め、個々にあった一日のリズムで生活して頂けるように支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の意見や、家族の面会時や担当者会議での意見、フロア会議での協議などを活かし、ケアプラン作成に反映している。	日々の関わりの中で利用者や家族の思いを聞き取ると共に把握した情報を利用者毎の担当者を主に職員全員で情報の共有し、アセスメントを経て、現状に即した介護計画の作成となっている。毎月のモニタリングや状態変化による見直しも随時行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別に生活・介護記録を記入しており、また、特変のあった利用者については申し送りノートを活用し、情報を共有できるように実施している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入居者の急変時に対しては、かかりつけ医などに受診し、レクリエーションなどは法人内の関係施設と連携し柔軟な支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の公民館行事に参加したり、ペットボトルキャップ回収協力の依頼をしたり、地域の資源ごみ回収に協力したりしながら、地域に開かれた豊かな生活を楽しむことができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は本人の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と連携をとりながら、適切な医療が受けられるように取り組んでいる。</p>	<p>希望の掛りつけ医の継続支援をしている。車椅子の利用者や家族の状況に応じてホーム側で同行し、家族に依る他科受診時には主治医への情報提供を行い、受診結果についても家族との情報の共有も出来ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の特変時やバイタル測定結果などを相談して、アドバイスをもらい、個々の利用者が適切な看護や受診などがうけられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された時は、今までの生活状態をサマリーですみやかに提出し、その後も病院に出向き、情報交換や状態把握に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人の状態が良い段階から家族と話し合いを行い、施設内で出来る事を説明し、本人や家族の希望を取り入れて、より良い支援が出来るよう取り組んでる。</p>	<p>契約時に家族に急変時の対応について説明し同意は得ている。</p>	<p>今後、利用者の身体状況の変化や高齢化も進む事から、早い段階から重度化や終末期に向けたホームの方針を明文化し、文書での家族への説明と同意が望まれる。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>日中、夜間を問わず、急変時や事故発生時の場合の訓練を連携病院や施設で定期的に勉強会を行い、実践力を身につけるよう学んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の避難訓練を実施している。内1回は地域の方や家族、包括の方々にも協力を得ている。緊急連絡網の中にも地域の方々に入ってもらい協力体制を築いている。</p>	<p>消防署立会いの定期訓練を年に2回行っており、内1回は運営推進会議と合同で地域住民や家族の参加を得て通報、避難、消火訓練などを実施している。今後はホーム独自の自主訓練も計画しており、利用者の安全確保を第一に考えている。備蓄も賞味期限を明記して十分に保管されている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人に応じた声掛けや人格を傷つけないよう常に言葉使いに気をつけて対応し、気持ち良く過ごしてもらえるよう、努めている。	利用者と同じ目線での会話を心掛けており、常に敬意を持った対応は管理者の強い想いであり、職員にも浸透している。接遇についての勉強会も法人全体やホームでも行っており、誇りやプライバシーに配慮したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の話には耳を傾け、入居者が素直に自己決定出来るように促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、睡眠、入浴、外出など、一人ひとりの意見を大事にし、無理せず、本人の希望通り、過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日に着たい服を選んでもらい、気分よく過ごして頂く。外出される際、お気に入りのスカーフや帽子を身に付けて頂く。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事の先輩方々なので、食材の切り方や料理の仕方、味付け等教えてもらう。また、昔の話をしながら片付けや皿洗いなど職員と一緒にいる。	季節の食材や利用者の嗜好に合わせて献立を作成している。月に1回の外食やソーメン流し、ピクニック弁当など目先を替えた食の提供は利用者の楽しみになっている。力量に併せて、調理の下ごしらえや茶わん洗いなども生活の中で張り合いに繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の食事・水分・摂取量、排尿・排便を記録表に記載している。また個々の状態や力に応じて食事形態を刻み・ペーストにしたりと支援している。2ヶ月に1回体重測定もおこなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをおこない個々にあった対応で口腔ケアの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成しており、個々の排泄パターン・リズムを把握できるようにしている。なるべくオムツを使用しないで済むよう支援を行っている。	日中は出来るだトイレでの排泄を支援している。各自の排泄パターンの把握に依る適時の声掛けやサインを目安に誘導を行っており現在、オムツ使用の利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維物の多い食材を献立に取入れ、便秘予防に取り組んでいる。また、水分補給も個々に応じて工夫して多く取っていただけるよう促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。	入浴をためらう利用者に対しては時間や日をずらし、気分転換を図るなどの工夫をしている。異性介助についても慣れるまで時間をかけて本人の了解を得られており、入浴がゆったりと楽しい時間になるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安易に薬を用いず、一日のリズムを作る事によって、安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を保管し、個々の服薬内容を把握している。確実な服薬支援に努めるため、服薬前後に名前・日付等のチェック確認をし、誤薬防止を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや野菜を切って頂く等、日常の中で役割を見出すことが出来る様に支援している。また、気分転換に天気の良い日は外気浴を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物や散歩等、個々の希望に応じて支援している。また、花見・夏祭り・ピクニック・蛍見学・外食等の全体行事や個別行事も取り組んでいる。	誕生日には「わがままデー」を設け、職員配置を増やし、個別の外出支援にも力を入れている。年間計画にも外出を多く採り入れ、花見やピクニック、蛍鑑賞など利用者は季節を肌で感じる機会も多くある。日常的には近隣の散歩や買い物など外気に触れる機会を設け、出来るだけホームに閉じこもらない生活を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の力量や希望に応じて使用できるように金銭管理を行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話希望される時は職員が家族へ電話を行い、ゆっくり会話ができるように配慮している。また、年賀状は書ける方には書いて頂き、書けない方にはスタンプ等を押して頂き家族へ送っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールには入居者にとって不快や混乱を招くような刺激（音・光・色・温度）等に配慮し、季節感を感じられるように花や飾付を行い居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	<p>ホール内は清掃が行き届き明るく清潔感がある。加湿器の設置もあり空調管理への配慮もなされている。壁には季節を感じ取れる飾りつけや行事ごとの写真を貼る事で、面会時の家族や利用者の楽しい話題作りになっている。対面式のキッチンからは調理の臭いや音を通して、生活感を得られ、利用者は個々にゆったりとくつろいだ時間を過ごせる共用空間になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールには、ソファやテーブル席があり、テレビを観たり、音楽を聴いたり利用者思い思いの場所で過ごして頂けるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族に希望を伺いながら使い慣れた物を持ってきてもらい、居心地よく安心して過ごして頂けるよう支援している。	各自が馴染みの深い家族写真や位牌、趣味の書や飾り物を置くなどし、自宅の一室のようにくつろげるプライベート空間になっている。家族の希望でベットの乗り降りに介助バーの設置や、避難誘導に容易な掃出しの窓もリスクに配慮した造りである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの個性や身体状況に合わせ、自宅で常にしている動作（生活リハビリ）を取り入れ安心して意欲的に自立した生活が送れるよう接している。		



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない